



現場 eye

走り続ける老舗美術館  
時代を生きる、地域と生きる  
山陽新聞編集局文化部記者 岡田智美

特別 寄稿

まちづくりにおける時間と空間  
建築家 隈研吾

特集対談 Think Now 第9回

## 子供たちの未来のために

人を結び、世代を結ぶまちづくり

おとたけひろただ  わたなべま り  
乙武洋匡  渡辺真理

作家 フリーアナウンサー

街に、ルネッサンス  
 UR UR都市機構

 みんなで止めよう温暖化  
[UR都市機構] チーム・マイナス6%

CONTENTS

01 特集対談 **Think Now** 第9回  
子供たちの未来のために  
人を結び、世代を結ぶまちづくり  
作家 乙武 洋匡  
フリーアナウンサー 渡辺 真理

07 特別寄稿  
まちづくりにおける  
時間と空間  
建築家 隈 研吾

11 現場eye  
走り続ける老舗美術館  
時代を生きる、地域と生きる  
山陽新聞編集局文化部長 岡田 智美

15 *TownScope* タウンスコープ 第9回  
離れてわかった  
ふるさとの美しさ たくましさ  
—「ちゅらさん」のまち 元気な沖縄 那覇  
女優 国仲 涼子

17 Theひと いま、輝くあの人を訪ねて  
好きなゴルフを続けたい。  
その想いこそが“元気のカ”  
プロゴルファー 須貝 昇

19 URのしごと  
東京スカイツリー®の  
まちづくりを提案力と  
行動力で力強くサポート

21 URからのお知らせ

22 編集後記

特集対談  
**Think Now** 第9回

# 子供たちの未来のために 人を結び、世代を結ぶまちづくり

おと たけひろただ わたなべ まり  
作家 乙武洋匡 フリーアナウンサー 渡辺真理

1998年に著書『五体不満足』で日本中の注目を一気に集め、以来そのバイタリティーあふれる行動力で縦横無尽の活躍を続けている乙武洋匡さん。現在は主に教育の分野で、人とまちを結ぶ試みに力を入れる乙武さんに、独自の考え方やパワーの源まで、存分に語っていただきました。

## チャレンジ精神の源は 失敗を怖れない心

**渡辺** 乙武さんは、学生時代からまちづくりのための活動に積極的だったと伺っています。きっかけは何だったのでしょうか？

**乙武** 僕が早稲田大学に在学中、近隣商店街の方たちがまちづくり活動を始めたのを知ったことがきっかけでした。ちょうど事業系

に住む人々のつながりには若い頃から興味がありました。

**渡辺** 乙武さんには人との出会いを大きな活動へと広げていく求心力がありますよね。普通は出会いがあってもなかなかそうした形には発展させていけないというか、人との境界や活動へのハードルを感じてしまいがちなのに、それをすると超えてしまう気がします。

**乙武** たぶん、失敗に対する怖れをあまり感じないタイプなんだと思います。「石橋を叩いて渡る」ということわざがありますが、僕はそこに橋が架かっているかどうかさえ確かめずに渡りはじめてしまう性格(笑)。先日、現在アメリカを拠点に活動している陸上選手の為末大君とも話したんですが、日本の若者には「やりたいことが見つからない」と言っただけで止まってしまふ人が多いんですね。でも本当はやりたいことがないのではなく、失敗に対する怖れが大きいんだと思うんですよ。興味のあるものに出会っても、うまくいかないんじゃないか、自分には向いていないんじゃないかと頭の中で自己完結させて「やらない」という選択をしてしまう。一方で為

のゴミが有料化された頃だったので、最初はゴミを減らすためのリサイクル活動が中心だったのですが、そのうちにバリアフリーや地域教育といったことにも取り組もうという動きが出てきたんですね。そんなタイミングのときに彼らと出会って、力を貸してほしいと言われたのがきっかけです。

**渡辺** 具体的にはどのような活動をなさっていたんでしょうか？

**乙武** 地域の子供たちと『車椅子探検隊』というイベントなどを開催しました。社会福祉協議会から車椅子を十数台借りてきて、乗ったり押ししたりしながらまちを歩き回ってもらい、普段の景色や感覚がどう違ってくるのかを体験してもらっています。そんな活動をずっと続けてきたので、まちや、まち

末君がいうには、アメリカの若者とはとにかくチャレンジしてみるそのななんです。もちろん失敗もするんですけど、失敗は挫折ではなく経験値だと捉えるから、次のチャレンジでは成功への精度が高まると考える。なるほどなと思いました。

**渡辺** 日本の若い世代の考え方は教育や制度の影響もあるかもしれませんが、ユニークであるところがあまり評価されない、ベンチャーの生まれにくい土壌で育つと、どうしても減点法での考えられるようになる。うまくいけば褒められるというよりも間違えたら怒られるという意識の方が強くなって、萎縮してしまうのかもかもしれません。

**乙武** 僕も教育の影響は大きいと思います。子供というのは元来やんちゃで好奇心旺盛ですから、誰でも子供の頃にはとんでもない失敗をやらかすものなんです。そのときにチャレンジしたという態度を評価してもらえず、失敗したという結果だけを非難されて育てば「なんだ、せっかく頑張っても失敗すると怒られるんだ。だって大人に言われたことだけやって

家や家庭って、いわば  
充電器のような  
存在だと思っんですよ



乙武洋匡  
Hirotada Ototake

1976年東京都生まれ。早稲田大学在学中の98年、先天性四肢切断という障がいとともに生きる体験を綴った『五体不満足』を出版。500万部を超すベストセラーに。以降、報道キャスターやスポーツライターとして活躍し、05年からは教育の分野へも進出。新宿区教育委員会非常勤職員を経て07年より10年まで杉並区立杉並第四小学校勤務。11年、自身の小説『だいじょうぶ3組』の映画化が決定。13年公開予定。

「とに価値があるのだ」という考え方を育んだのだと思います。

1年365日ずっと  
元気がなくなつてく



杉並区立杉並第四小学校での授業の様子



運営にも携わる「まちの保育園 小竹向原」

「いれればいいや」と考えるようになるのはごく自然なこと。そういう意味では、僕はチャレンジして怒られたという経験がないんですよ。なにしろ両手両足がないという衝撃的な姿で生まれてきたから、親は最初「この子は一生寝たきりだろう」と思ったそうなんです。だから、寝返りを打った、起き上がった、歩いた…と、何をしても褒めてもらえませんでした。そういう加点方式で育てられた経験が「失敗してもいい、やってみるこ

いれればいいや」と考えるようになるのはごく自然なこと。そういう意味では、僕はチャレンジして怒られたという経験がないんですよ。なにしろ両手両足がないという衝撃的な姿で生まれてきたから、親は最初「この子は一生寝たきりだろう」と思ったそうなんです。だから、寝返りを打った、起き上がった、歩いた…と、何をしても褒めてもらえませんでした。そういう加点方式で育てられた経験が「失敗してもいい、やってみるこ

教育の場で実現させたい  
「恩送り」とは

「乙武 僕もあの「明るく」にはどこか痛々しさを感じます。真意は「心の豊かな人になりましょう」ということだと思っんです。解釈を間違えている気がしますね。暗くても心の豊かな子はいるわけですから。心豊かという意味では、明るいのもいいけど暗いのもいいよね、という風に多様な価値観を認められることの方が大切だと思っんです。

乙武 僕もあの「明るく」にはどこか痛々しさを感じます。真意は「心の豊かな人になりましょう」ということだと思っんです。解釈を間違えている気がしますね。暗くても心の豊かな子はいるわけですから。心豊かという意味では、明るいのもいいけど暗いのもいいよね、という風に多様な価値観を認められることの方が大切だと思っんです。

乙武 僕もあの「明るく」にはどこか痛々しさを感じます。真意は「心の豊かな人になりましょう」ということだと思っんです。解釈を間違えている気がしますね。暗くても心の豊かな子はいるわけですから。心豊かという意味では、明るいのもいいけど暗いのもいいよね、という風に多様な価値観を認められることの方が大切だと思っんです。

の頃から目立つのが好きで、人に見られると「おっ、俺、今日も目立ってるな」と、ちょっと嬉しく感じるんです(笑)。これはもう持つて生まれた性格で、僕にとつてはラッキーだったとしか言いようがない。目立ちたがりなだけでなく、負けず嫌いだとか鼻っ柱が強いとか、周りの人が手を焼くようなところが僕にはいくつもあつたんですが、この身体にとつてそれがすべてプラスに作用していることは間違いないでしょうね。

乙武 素晴らしい精神と素晴らしい肉体とのベストマッチングが乙武さんだというわけですね。たとえば私もそうですが、表に出る仕事をしたいと、時々人の視線に見えない悪意を感じたりしてしまふことがあります。でもその視線が悪意なのか注目なのか、本当のところはわからない。結局、自身自身の心の持ちようなんですよね。

乙武 そう思います。僕も書籍『五体不満足』が出る前と出たあととでは、人の視線に対する気持ち少し変わりました。本を出す前には嬉しかった視線が、本を出した直後は窮屈に感じるようになって。なんというか、監視され

ているような気分になつてしまつて、本なんか出さなきゃよかったとしばらく落ち込みました。

乙武 そんな時期もあつたんですね。精神的に辛い時は、どんな風にして乗り越えるんですか？

乙武 部屋のカーテンを全部閉めて、電気も消した真つ暗闇のなかで暗い音楽を聴きます(笑)。中途半端に落ち込まず、それ以上落ちられないところまで意識的に落ちてみるんです。大抵は、それを3日くらい続けると気が楽になつてきますね。よく、本当は元気がないのに空気で頑張ろうとする人がいますが、僕は空気が一番自分を傷つけると思っんです。だから無理に元気になろうとはしません。1年365日もあれば、元気じゃない日があつたつていいじゃないですか。常に元気でいきやいけない、常に頑張つていきやいけないという価値観に縛られるから、自己嫌悪に陥つたり焦りが生まれたりするんですよ。

乙武 辛さに対しても前向きです(笑)。でもおっしゃることはよくわかります。小学校の教育目標に「明るく、仲良く、正しく」と

## 子供たちのチャレンジを 応援してあげられる 社会を作っていきたいですね



りからの愛情を一杯に受けて育つという意味では、自分は本当に恵まれていたなと。

**渡辺** 『五体不満足』には、出産後しばらく我が子に会わせてもらえなかったお母さまが、初めて乙武さんと対面したときに「可愛い」とおっしゃったというくだりがありますね。

**乙武** そう、無条件の愛情というのは「自己肯定感」を育むことにつながります。自己肯定感というのは、自分は愛されているんだ、大切にされているんだ、存在しているんだ、と心から感じ、自分自身を大切にできる気持ち。それ

した。そこで、まずは「まち全体での子育て」をコンセプトにした保育園を作ってみようと考えたんです。

**渡辺** 子供たちが安心して帰れる家庭があつて、いくつもの家庭をすっぽり包む温かなまちがある。そんなイメージでしょうか。そのふたつが一体となつて、子供たちにとつての柔らかなネットのようになれるといいですね。

**乙武** 家や家庭つて、いわば充電器のような存在だと思うんですよ。家庭でパワーをチャージできるからこそ、また外で元気に活動できるんです。ですから「まち」には、そんな風に活力を取り戻せる「家」を支える場になつてほしいですね。

**渡辺** とはいえ昨今ではさまざまな事件の影響を受けて、学校などの教育施設ではセキュリティにも敏感になっています。

**乙武** そうなんです。まちに対して開かれた保育園にしていきたいと思つても、社会はどんどん閉ざしていく方向へと動いています。これをどう解決するかが課題のひ

さえあれば、たとえ手足が4本足りなくなつて楽しく生きられるんです。だから今度は、僕自身が上の世代から受けてきた恩を次の世代に返していきたい。それがこういう身体に生まれた僕の使命なんじゃないかと思ひました。恩返しというよりは「恩送り」という感じですね。

**渡辺** つまり乙武さんにとつて教育というのは還元でもあるわけですね。小学校から保育園へと、さらに低い年代の子供たちに目を向けたのには何か理由があるんでしょうか？

**乙武** 小学校の教員をしていたとつです。現在は、園の隣にカフェを開いて保護者とともに一般の方にも利用してもらつたり、イベントを通して地域の方々の交流を図つたりしながら、園とまちとの結びつきを作ろうと仕掛けているところです。

### 被災地で得た 新たな発見と決意

**渡辺** 昨年は、東日本大震災の被災地も訪問なさつたそうですね。

**乙武** 被災地では、逆境のなかで前向きに頑張っている人たちがたくさん出会つて、とても心を動かされました。同時に、そんな自分にはつとしたんです。「あ、これいつもと逆だ」つて。彼らはただ自分や家族、自分のまちのために頑張っているだけで、別に僕たち



昨年訪問した被災地での乙武さん。茨城県北茨城市磯原町にて

きに、子供にとつて一番大切なのはやはり家庭だと実感したからです。たとえば急に忘れ物が多くなつたり友達に嫌がらせをするようになったりと行動に変化が出てきた子供の話をよく聞いてみると、家庭内で何か環境の変化があつたというケースがほとんどなんです。大人から見れば「そんな些細なことでは？」と思うような変化でも、子供にとつては心のバランスを崩す大きな要因になつてしまう。でも現実には安定した家庭ばかりではありませんから、そうした家庭に育つ子供をもサポートしていくためには、もつと地域社会やまち全体で子供を育てていく仕組みを作らなければいけないと思ひま

を感動させようとして頑張っているわけではないですよ。でも僕たちはそんな彼らを見て、勝手に感動したり勇気づけられたりする。いままで僕は「手足がないのに頑張っている乙武さんに感動しました」というような言葉に少し抵抗があつたんですが、気持ちが理解できました。これは自分にとつてすごく大きな発見でしたね。

**渡辺** この震災では「絆」や「忍耐」という言葉がクローズアップされ、いままで見えなかったものも色々見えてきました。私たちはここから何かを生み出すことができるのでしょうか？

**乙武** 今回の震災では、多くの人が無力感に苛まれたと思ひます。でも、そうした弱みをきちんと受け入れることも大切だと思うんですよ。強みと弱みの両方を受け入れた上で自分ができることを頑張ることが、迷いのない、元気な将来を築いていくことにつながるんじゃないでしょうか。特に子供たちにはこの先何十年もの人生があるわけですから。彼らが社会に出たときに「あの震災があつたからこそ、自分はこういう人生を送れるんだ」と思えるような手助けを

していくことが、僕たち大人の役割だと思ひます。

**渡辺** では乙武さんにとつて、今年はどうな年になりそうですね？

**乙武** 僕は今年で三度目の年男になるんです。そこで年賀状に「天空を力強く駆けめぐる龍にあやかって、自分に制限を設けることなく果敢にチャレンジしていく一年にしたいと思ひます」と書いたんですね。そうしたらみんなに「いままでも制限を設けてるようには全然見えなかつたけど」と突っ込まれちゃいました(笑)。

**渡辺** たぶん日本中の誰もがそう突っ込むと思ひます(笑)。

**乙武** 具体的には、一昨年に出した僕の処女小説『だいたいようぶ3組』に映画化の話をいただいて、小説での主人公、赤尾役を演じることになつたので、それが大きなチャレンジになりますね。映画という新たな形で、再び教育へのアプローチを図つてみたいと考えています。

**渡辺** 今日はどうもありがとうございます。

## 「URルネッサンス in 洋光台」プロジェクト

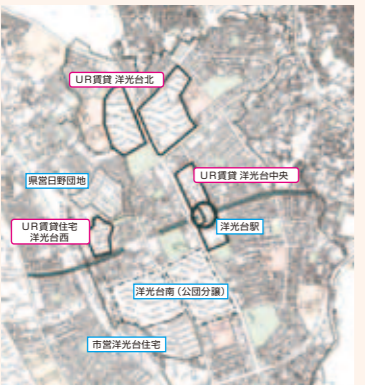


駅前の洋光台中央団地

「URルネッサンス in 洋光台」は、これまでURが培ってきた住棟改修技術、環境技術、少子高齢化対策、コーディネートなどのノウハウを結集した次世代に継承するまちづくりのモデルプロジェクトです。最新の動きはHPからもご覧いただけます。(近日公開予定)



洋光台北団地



- 凡例
- : UR賃貸住宅
  - : 公団分譲住宅
  - : 公営住宅
  - : 区画整理事業区域

### 洋光台地域の概要

- 神奈川県横浜市磯子区
- 最寄り駅: JR根岸線洋光台駅
- 日本住宅公団施行の土地区画整理事業(207.5ha)による郊外の計画的住宅地
- 入居開始: 昭和45年
- UR賃貸住宅3,350戸(洋光台中央、洋光台北、洋光台西)の他、公団分譲住宅約1,500戸、公営住宅等

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図2500(空間データ基盤)及び基礎地図情報を使用しました。(承認番号平23 情使、第68号)



現在の洋光台地域

特別  
寄稿

## まちづくりにおける時間と空間

全国に約1,800団地、76万戸あるUR賃貸住宅。その過半は昭和40～50年代前半に建設されたもので、入居者の高齢化や建物の老朽化が進み、その再生とまちの活性化が課題となっている。そんな状況をふまえて、神奈川県横浜市を舞台に「URルネッサンス in 洋光台」という団地再生プロジェクトがスタート。アドバイザーとして参画する建築家・隈研吾さんから、過去のまちづくりの成り立ちや本プロジェクトへの思いについて寄稿いただきました。

建築家 隈研吾

### 大災害を経て 都市は進化する

今回、洋光台のルネッサンスという大きな課題のアドバイザーをお願いされ、とても責任が重いながらも、面白いプロジェクトだと感じた。というのは、今いろいろの意味での時代の変わり目で、近くでは3・11の東日本大震災があったが、大災害の後というのは常に都市や住まい方が大きく転換する時期でもあるからだ。この震災は世界的に見ても大きな事件だが、過去を振り返ってみてもいくつかの節目がある。そのうち最も大きなものは1755年のリスボン大地震で、5く

都市のルネッサンスがいかに長期的に効果を及ぼすかということがわかる。

### 同潤会アパートの コミュニティ

20世紀に入っても、いくつかの大きな節目があった。ひとつは第1次世界大戦で、その後都市に多くの公共住宅をつくる必要が生まれ、パリ、アムステルダム、ベルリンなど各都市で公共住宅のプロジェクトが実施された。日本ではそれにならったものとして、「同潤会アパート」がある。1923年の関東大震災で10万もの人が亡くなったことを契機に、安全で燃えない安心できる都市が求められる中、財団法人の同潤会がヨーロッパに調査に出かけ、各国の集合住宅からいろいろのものを吸収し、世界レベルの集合住宅をつくり上げたのだ。

「同潤会アパート」の基本テーマは、景観・コミュニティ・環境で、デザインも若い世代を含め幅広い年代の人々に愛された優れたデザインである。さらに特筆すべきは、コミュニティへの取り組みである。代官山の「同潤会アパート」にも、食堂や共同浴場などの複合的な機能が用意され、多世代のコミュニティを支える意図があった。それが震災後の日本の復興に大きな指針を示した。戦後、UR都市機構の前身である日本住宅公団が、高度経済成長を支える中堅勤労者に良質な



Kengo Kuma

1954年神奈川県生まれ。建築家。隈研吾建築都市設計事務所主宰。東京大学工学部大学院修了。主な作品に「GREAT (BAMBOO) WALL」「サントリー美術館」「東雲キャナルコートCODAN」「Sunlitun SOHO (北京)」など多数。2009年より東京大学教授としても活動。



東京の「東雲キャナルコート CODAN3街区」

住まいを供給することを目的として設立され、昭和40〜50年代前半に大量の集合住宅がつくられることになった。

その代表的なもののひとつが、洋光台の団地であろう。個人的な体験としては、中学・高校と大船の学校に通っていたのだが、当時、山だったところに根岸線が通り、そこに新しい住宅地ができるというので、新たな未来が始まったような印象を受けたものだ。それが、大阪万博と同時期。そういつた新しい時代、華々しい印象だった記憶がある。

ところが大学に入るとオイルショックがあり、それはもう成長の時代・工業の時代ではないという転換点だった。その後の成熟の時代が続いて、今に至っているという大きな時代の流れがある。

## 多様化をみせる 世界の集合住宅



北九州の「戸畑C街区整備事業」

そしてこの20年間、ヨーロッパでは脱工業化社会型のデザインを展開していく必要があるという認識で、集合住宅ではさらに新しい試みがなされている。なかでも、話題になったもののひとつが、ア

計画。真ん中にボイドなど半屋外のスペースをたくさんとり、最上階も入れるようにして中庭付きの特別な住戸を設けている。

北九州の戸畑プロジェクトは、祝祭空間が特徴だ。住宅の上と隣接する区役所の屋上を全部緑化して、その一部が山笠の観客席に。機能的にも保育園や高齢者住宅、公社賃貸、分譲、区役所が複合されていて、それらが「ふれあいの丘」をシェアする構成になっている。丘に隣接する階段状の部分が山笠の観客席で、その下に区役所が入っている。



中国北京の「Sunlitun SOHO」

ムステルダムの「ボルネオ計画」である。オランダはインドネシアとの交易が盛んだった歴史があり、阿姆斯特ダムはその貿易港。そこにウェスト8というランドスケープのデザイナーが中心となってエリア計画を実施。建築の形でなく住み方の形式にこだわって様々なバリエーションを検討され、多様な人たちに愛されるまちをつくらうと計画された。すべて新しくつくったまちだが、昔からここにあつたかのような時間のとらえ方がテーマになっている。そのために、たくさん建築家を呼び、ある意味バラバラにデザインされていて、ファサードも全部違う建物が並ぶ。そうして時間が経過したかのような風景を実現している。

同じくオランダのシロダムの集合住宅に、MVRDVという建築事務所が関わっている。ここでも機能の共存、ライフスタイルの共存がテーマになっていて、まざらライフスタイルや機能の分析が行われ、それをどう混在させるかというアイデアグラムから設計が行われている。ひとつの設計事務所の手によるものだが、いかに均一性を壊すかという取り組みがなされている。

近年、オランダやヨーロッパの集合住宅が面白くなっているのは、さまざまな経済的な仕組みを取り入れられているからだ。これまで公共集合住宅といえば、低家賃の賃貸中心だったが、定期借家の

## 21世紀型の新たな 集合住宅に向かつて

中国でも新しいプロジェクトを手がけており、テーマとなっているのが国としてどうやって良質の集合住宅を提供し、しかもそれが都市の中で孤立せず都市と一体となったコミュニティをつくるかということである。

北京市内につくったSunlitun SOHOという複合施設の計画では、事務所と集合住宅とSOHOのタワーが混在していて、下に商業施設を入れて活性化し、真ん中に水の流れる潤いある環境空間をつくるのがテーマとなっている。案外知られていないが、中国では、環境に対する国の取り組み



フランス・リヨンの「HIKARI」プロジェクト

ようなしくみや分譲を入れて混ぜることでバラエティを増やし、集合住宅全体の経済的な価値を高めるしくみが行われているのだ。これは各国が財政難のなか、公共住宅を魅力あるものとして再生させるためのひとつの策でもある。

その他、コペンハーゲンのティエゲン学生寮では、中国の客家の円い住宅（福建土楼）が設計のヒントにされた。建物は港の近くやや寂しい場所にあり、ここでいかにあたたかい空間をつくるかというので中庭型の住宅がつくられた。今パリで一番話題になっているのは、ピラミッドという住宅のプロジェクトだ。これは公共建築ではなく、民間デベロッパーによるものだが三角形の巨大な建物は、賛否両論だ。周辺住民は大反対をしているようで、本当に実現するのか注目されている。

日本では東雲（東京都江東区）のキャナルコートがある。これは私や伊東豊雄さん、山本理顕さんを始めとする複数の建築家の方々がつくったものだ。UR都市機構のみならず、新しい21世紀の集合住宅、つまり住むための単機能ではなくて、店舗や保育園とか事務所などの機能が混ざった施設として、空間をみんなが共有するようなくみを考えたいということ、たいへん面白いコラボレーションができたと思っている。東雲は倉庫跡地を大きく6街区にわけ、6チームで

方は急激に進展しており、大きなガラス窓は設置禁止など、日本以上の厳しい環境基準が設けられている。

最近の仕事では、フランス・リヨンのHIKARIと呼んでいる環境共生の多機能型のプロジェクトがある。リヨン市長が、環境共生型の集合住宅をリヨン市としてつくりたいということで、敷地は川の合流点にあり、いかにして自然光を取り入れて明るい空間を創出するかが課題になっている。材料もリヨンの近郊で採れる石や素材を多用する予定だ。また、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）を中心とした環境コンサルタントとも協働する環境共生型の住宅プロジェクトだ。

このように、世界的に見ても新しい集合住宅をつくるさまざまな試みがなされている。日本でもちやうど関東大震災の後、同潤会で新しい住宅が幕を開けたように、3・11を経た今、絆の集合住宅や環境の集合住宅など、建築にも新しい時代が始まっていくのではないかと。既存のものを白紙にしていくのではなく、既存のものの上にかに絵を描くかという21世紀型の新しい集合住宅が求められているのだと思う。

今回の「URルネッサンス in 洋光台」もひとつのモデルケースとなり、世界的にも注目されるプロジェクトになっていくはずだ。



毎年8月に開かれる“チルミュ”で名画を鑑賞する子供たち。館内いっばいに歓声が響き渡る

# 走り続ける老舗美術館

時代を生きる、地域と生きる

山陽新聞編集局 文化記者 岡田 智美



Tomomi Okada

岡山大学文学部哲学科(美学・美術史専攻)卒。1994年山陽新聞社入社。文化部、社会部、整理部などを経て2007年から再び文化部で美術などを担当している。

## 「老舗美術館」は、最も旬の現代アートに出会える場

年明け早々、取材に訪れた大原美術館（岡山県倉敷市中央）は、いつもと少し趣が異なっていた。

壮麗なギリシャ風の本館エントランスをくぐった先のアトリウムで、出迎えてくれたのはピンクのワンピースのウーパールーパーの張り子が飾られたひな壇。世界的名画エル・グレコ「受胎告知」の向かいにも、厳かにウーパールーパーが描かれた油彩画が掲げられている。

なんだこれ？ とキツチュなおもちゃみたいなオブジェをいぶかしそうに眺める人、妙に愛嬌あいきょうのある表情に笑ってしまふ人。入館者の反応にうなずきながら、「面白いでしょ」と芸芸課長の柳沢秀行さん(45)が現れた。これらは元日に開幕した現代美術のシリーズ展「AM倉敷」（4月8日まで）の展示作品。AMとはArtist Meetsの略。

今回はウーパールーパーに自画像を重ねる新進画家松井えり菜さん(28)＝倉敷市出身＝が、幼いころから親しんだ美術館の名画を自画像に取り込んだりした作品を館内に展開するという趣向だ。

モネ、ゴーギャン、ピカソ…。美術ファンならずとも知る巨匠の名画がずらり並ぶ大原美術館は1930年の開館。わが国初の西洋近代美術館として知られる。老舗は、最も旬の現代アートに出会える場として、いまもトップスピードで走り続けている。

## 「常に「成長」し続ける美術館を目指して」

特にこの10年の進化はめざましい。館長に美術界の重鎮・高階秀爾氏を迎えた2002年から、新たに加わった柳沢さんらスタッフとともに、大原家旧別邸・有隣荘を使った現代美術展、若手作家に滞在制作してもらうアーティスト



中庭の池では、フランスのモネの庭から株分けされたスイレンが毎夏かれんな花を咲かせる



ギリシャ神殿風の建物がひときわ目を引く大原美術館

ト・イン・レジデンス事業（通称ARKO）など、新規事業を次々立ち上げる。

これまでにかかわったアーティストは、杉本博司さん、ヤノベケンジさん、やなぎみわさんら、アート界の一線で活躍する顔触ればかり。ただ現場で指揮を執る柳沢さんにいわせると「これまでしてきたこと、いわゆる美術館の使命をブラッシュアップしているだけ」という。

もともと美術館のコレクションは、実業家大原孫三郎の支援でヨーロッパ留学した洋画家児島虎次郎が、本場の絵画を日本人に紹介しようという志の下に集めたもの。孫三郎が児島の遺志をくんで創設した美術館は、2代目總一郎に引き継がれた際、美術館は単なる陳列場ではなく、常に生きて成長していなければならないと戦後の新しい美術を収集したように、常に時代とともにあった。

そして現在の大原謙一郎理事

長は「第3創業期」と位置づけ、「成長」にさらに磨きをかける。目指すのは倉敷の地において、21世紀に必要とされる美術館、だ。

「チルミュ」がつむぐ

子供たちと地域のつながり

「結局ね、美術館は地域社会の装置としてどう機能するかってことなんですよね」

美術館の理想をたずねると、柳沢さんはかつての自身の体験談を教えてください。

岡山県立美術館の学芸員だったころ、優れた絵画を集めた展覧会に入場者が集まらず、ショックを受けた。そのとき気付いた。いい展覧会をしているからと殿堂然と人を待たせていてもだめで、美術に触れる楽しさを伝えていくことも美術館の仕事だと。

だから大原美術館に職場を移した年、「チルドレンズ・アート・ミュージアム（通称チルミュ）」を立ち上げた。夏休み最後の週末

全館を使って繰り広げる子供向け体験プログラム。参加した子どもたちは中庭の彫刻広場ではだしになってダンスをしたり、クイズを

しながら展示室をめぐったり。さながら遊園地のにぎやかさに包まれる夏の名物行事だ。

その取り組みは「気の長い、社会実験のようなもの」ともいう。例えば1993年から行っている未就学児対象プログラムは、市内約25の保育園・幼稚園を毎年受け



江戸時代の風情を残す美観地区。美術館と町をつなぐ今橋の電模様は、児島虎次郎が辰年生まれの大原孫三郎にちなんでデザインした



倉敷美観地区の町家や商家が自慢の屏風を並べる秋の「倉敷屏風祭」。美術館向かいの国重文・大原邸にも逸品が飾られ、周辺は祭りムードに染まる

入れ続けている。最初に受けた子はもう20代になる。

何を描いているのか分からない抽象絵画、へんてこなオブジェ、遠く離れたオリエントのつぼなど、美術館の作品を通じて多様な美の価値観を知った子は、未知のものに出合ってもきっと、心を開くことができる。美術家にならずとも、イメージーション豊かな社会人になってくれるはずだ。

「人にちゃんと寄り添える公務員、独創的な料理人とか。そんな大人が増えれば、倉敷のまちがもっと面白くなると思いませんか？」

つまり、地域力の底上げ。人が育ち、まちが活気づけば「美術館があって良かった」とその価値も広く認識されていく。

「美術館は豊かな

出会いの場でありたい」

話にひと区切りがついたころ、展示室に園児たちが手をつないで入ってきた。未就学児対象プログ

ラムを受ける子供たちだ。

「わあっ、ウーパーだ」

松井さんの作品に、歓声が上がった。早速、柳沢さんは会場にいた松井さんを手招きして、子どもたちに紹介する。

「このお姉さんが描いたんだよ。みんなのように小さいころから、お姉さんもこの美術館でたくさん絵を見ていたんだよ」

好奇心いっぱい瞳が一斉に松井さんをとらえた。恐らく、人生で初めてのアーティストとの出会い。きらきらした瞳に見つめられ、照れくさそうに笑う松井さん。天窓から柔らかな冬日が差し込むあの日の温かなひととき――。

地域に人がいて文化は生まれ、はぐくまれる。人と作中とアーティストと。美術館はいつも豊かな出会いの場でありたいと柳沢さんはいう。そして地方紙もまた、そんな出会いが生む物語を現場で見つめ、伝えていける存在でありたいと思う。



展覧会場で松井えり菜さんと談笑する柳沢秀行学芸課長。若い作家に発表の場を与えるのも美術館の役割だ





首里城(沖縄県那覇市)  
 絵:平野敬則

## 私

是那覇の中心部で育ちました。子供の頃はショートカットで男の子みたいに半ズボンをはいて、真っ黒になって遊ぶ毎日。波の上ビーチも近いのですが、家族がキャンプ好きなのでよく西海岸や慶良間諸島などにも出かけました。エメラルドグリーンの透명한海と真っ白な砂浜がふるさとの原風景です。

高校生の頃には友だちと松山公園でお弁当をひろげたり、近くの国際通りへもよく出かけたものです。高校を卒業してから一人で東京にやってきましたが東京の電車に慣れるまでは大変でした。沖縄には鉄道がなかったですからね。

幸運なことに、沖縄が舞台のNHK連続テレビ小説『ちゅらさん』のヒロイン古波蔵恵理役をさせていただくことになり、ロケで訪れた那覇の街はふるさとなのにとっても新鮮に感じました。

なかでも、古波蔵家のある首里金城町の歴史的な石畳道は特に印象的。坂のきつい昔ながらのこぼこの石畳で、登り降りするのにはハアハア言ってしまうほど。しかし、道沿いにある赤い琉球瓦のお屋敷の石垣から、沖縄ではアカバナというハイビスカス

やアーゲンベリアが顔をのぞかせ、本当に美しいのです。15世紀頃に生まれた沖縄の万葉集ともいわれる「おもろそうし」には、首里のまちは京都や鎌倉にも勝るとも劣らず美しいと書かれているようですが、その風景は、琉球王国の首都の誇りを秘めています。生まれ育ったあまりにも身近なまちなので、気がつかないのですね。

## も

うひとつふるさとを離れてわかったのは、元気で強いおばあちです。亡くなった私の祖母は病院に入るとき、もう意識もあまりなかったのに沖縄民謡を流すといきなりカチャシーを踊りはじめたのです。また沖縄ではゆいまーるといいますが、おばあを中心に隣近所が助け合い、なぐくるないさあー(なんとかなるさ 心配ないよ)と、どんな時でも明るく暮らしています。私も小さい時からお母さんのいうことは聞かなくてもおばあこのうことは聞きなさいといわれてきました。お年寄りを尊敬し大事にする、それだけで暮らしもまちなまちなのかも知れませんが、沖縄はそんな

※カチャシー 沖縄民謡の演奏にあわせて、両手を肩上げ振り回して踊る代表的な手踊り



首里金城町石畳道  
 (沖縄県那覇市)

# 離れてわかった ふるさとの美しさ たくましさ

——『ちゅらさん』のまち 元気な沖縄 那覇

国仲 涼子

Ryoko Kuninaka

女優・歌手。1979年沖縄県那覇市出身。女優としてテレビや映画をはじめ、歌手としても活躍。最近では関西テレビ・フジテレビ系の火曜22時連続ドラマ『ハングリー!』に出演、主人公向井理の恋人役として注目を浴びている。代表作 テレビドラマ『ちゅらさん』シリーズ『みんな昔は子供だった』『結婚できない男』、映画『ミラーを拭く男』『電車男』『HERO』ほか。歌『琉球ムーン』『めぐり逢えたね』など。なお『心に残る朝ドラヒロインアンケート』で、『ちゅらさん』の国仲涼子は『おはなはん』の榎本文枝、『おしん』の田中裕子に次いで第3位となった(朝日新聞 2010年9月25日 beランキング)。



# 好きなゴルフを続けたい。 その思いこそが「元気のカ」

プロゴルファー 須貝昇さん



全英シニアオープンで日本人として初優勝の快挙を遂げた後、55歳で食道ガンの大手術。リハビリとトレーニングを経て見事復活したプロゴルファー須貝昇さん。その闘志あふれる姿勢に、強く励まされる人は数多い。明るくポジティブな生き方と、日々の「元気」の源泉について伺った。

## 攻

めのゴルフスタイルで定評があるプロゴルファーの須貝昇さん。「プロの道を歩み出した時期は意外に遅い。「スポーツへの道を考えていた19歳の時、知人に勧められたのがゴルフ。コースに同行し、あんな小さな穴に数回のショットでボールが入るなんて凄いと。翌日には研修生になろうと決めていました」

キャディを務めながら練習に励み、25歳でプロに。以来、着実な歩みを重ねてきたかのようだが、実は越えてきたハードルは決して少なくはない。「シニアの出場条件である50歳になるまでの5年は狭間でしたね。クラブの素材が木から金属に移行していった頃で、打つ感覚も変わった。自分のゴルフがわからなくなり、1年間ゴルフを離れた時もありました」

その闇を抜けると、須貝さんのゴルフは一気に開花する。シニアプロに転身した2000年に全英シニアオープンに初出場。3度目の挑戦となった2002年には、4日間の競技期間中首位をキープ



尊敬するジャック・ニコラスの顔を背に語る須貝プロ。

し続け、優勝の快挙を果たした。「強風と深いブッシュに悩まされる難しいコースでした。でも僕だけじゃなく皆が難しいんだ、自分に負けてはいけない」と。優勝が決まった時は、自分でもビックリしましたよ」

**そ**の後は欧州ツアーを転戦する日々が続いた。ところが55歳の時、食道ガンが発覚。食道と甲状腺、直腸、胃の4分の1を切除する大手術を受ける。「手術前は居直って、肉やウナギや食べたいものをどんどん食べましたね。麻酔から覚めかけた時の第一声は「ハラ減った」だったらしいです(笑)」

術後はただちにリハビリを開始した。マネジャーである奥様との二人三脚で、食事を摂る練習から始めて、筋力トレーニング、点滴台を持つての階段昇降。退院すれば今度は街を歩く、走る……。「もう一度ゴルフをしたいという一心。体重が落ち、ベニヤ板みたいだった体が、食べることに、トレーニングすることでどんどん戻っていくのが励みでした」

手術の5カ月後には早くも国内シニア大会に参戦した。ツアーを重ねることに持ち前の攻めのゴルフが復活。国内で活躍する今も、常に海外メジャー大会を意識した体作りを欠かさない。

そのポジティブな姿勢で多くの人を勇気づける、須貝さんの元気の源は……？

「やっぱり、大好きなゴルフですね」

## ゴ

ルフには終わりがないと須貝さんは言う。難度の高いコースにはねかえされては、また立ち向かう。静かな動きの中に闘志が燃え盛る。それが、おもしろい。「メンタルな面でも人間を大きくしてくれるスポーツ。ゴルフのためなら、たいていことは乗り越えられます」

朗らかな笑顔の底に熱い思いがたぎる。

### Noboru Sugai

1949年10月16日生まれ。レギュラーツアー時代に通算3勝を挙げた後、2000年にシニア入り。02年全英シニアオープンで日本人初となる海外メジャーツアーでの優勝を成し遂げる。05年に食道ガンの大手術を行い、克服。現在は国内シニアツアーで活躍中。



2002年7月28日、全英シニアオープンにて優勝し、トロフィーを手にする須貝プロ。アマチュア部門第1位の選手とも握手。  
by David Cannon Getty Image Sport

撮影協力

●ジャック・ニコラス  
ゴルフセンター大森

東京都大田区大森東3-28-1  
TEL.03-3298-5211  
http://www.jngolf.jp



## Topic

### 「DIY住宅」で自分スタイルの住まいづくりを!

これまでの賃貸住宅では、「壁紙を好きな色に替えたい!」「作り付けの家具を設置したい!」と思っても、退去時の原状回復義務など制約がありました。UR都市機構が提案する「DIY住宅」では、それらを見直すことで、お客様の好みの住まいづくりが実現できるようになりました。

住宅を内覧いただき、契約後は「お客様のプランニング&施工期間」として3カ月間住宅を無償で使用可能。その後、ご入居へという一般的な流れですが、ご入居後のDIYも可能です。

現在、「DIY住宅」としての募集住宅は、次の7団地。

- ・ニュータウン小山田桜台(東京都町田市)
  - ・千葉ニュータウン内野(千葉県印西市)
  - ・鳶尾(神奈川県厚木市)
  - ・かわつるグリーンタウン松ヶ丘(埼玉県鶴ヶ市)
  - ・鳴海(愛知県名古屋市中区)
  - ・藤沢台第5(大阪府富田林市)
  - ・もりつね(福岡県北九州市)
- 住まいにオリジナリティを求める方々に、ぜひ「DIY住宅」をご活用ください。

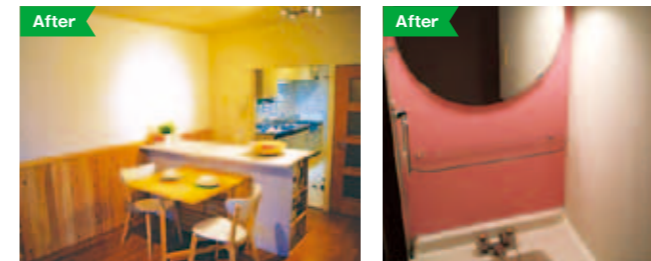


URの若手職員が藤沢台第5団地のDIYに挑戦しました

**キッチン** 材料費 4万円  
無垢のフローリング材を床に使用し、壁はブルーに塗り替え。棚も設置し、かわいいキッチンに。



**玄関** 材料費 1万円  
玄関はテラコッタ調のタイルやファブリックパネルを設置して、明るい雰囲気イメージチェンジ。



**リビング** 材料費 8万円  
白いクロスに壁に板壁と漆喰塗りで一新。さらにDIYでつくったカウンターも設置。

**洗面台** 材料費 1.5万円  
以前の洗面台の上を取り外し、ピンクで大胆にイメージチェンジ。

UR DIY で  <http://www.ur-net.go.jp/diy/>

## Report

### 災害公営住宅建設着手式を塩竈市で開催しました。

2月1日、宮城県塩竈市で「塩竈市災害公営住宅建設事業着手式」を開催しました。

当日は、佐藤塩竈市長、三浦宮城県副知事、郡東日本大震災復興対策本部部長らが出席され、塩竈市と「東日本大震災における災害公営住宅の整備に係る基本協定」を締結。宮城県と塩竈市から市内2地区で災害公営住宅建設の要請を受けました。

東日本大震災で、UR都市機構が災害公営住宅建設支援に着手するのは、これが全国初です。



(左から)佐藤塩竈市長、三浦秀一宮城県副知事、郡和子東日本大震災復興対策本部部長、UR都市機構理事長小川忠男

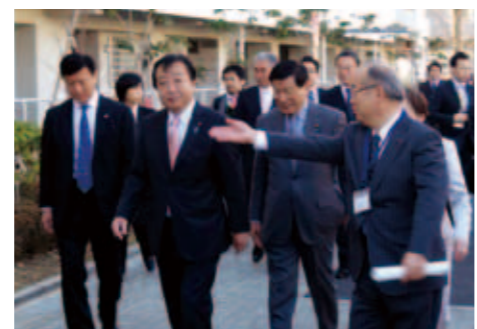
UR 塩竈 で  <http://www.ur-net.go.jp/saigai/info20120202.html>

## Report

### 野田総理が豊四季台団地を視察されました。

2月11日、野田総理が千葉県柏市豊四季台団地を視察され、豊四季台地域で取り組む「長寿社会のまちづくり」について、意見交換を行いました。

当日は、UR都市機構のほか、秋山柏市長、金江柏市医師会会長、秋山東京大学高齢社会総合研究機構教授なども出席し、各々が取り組みの状況を発表するとともに、住民代表の方々が高齢者事業を展開する事業者などさまざまな角度から高齢化社会への取り組みについて、意見が交わされました。



豊四季台団地を視察する野田佳彦総理

UR 豊四季台 で  <http://www.ur-net.go.jp/chiba/program/tyouju/index.html#shisatsu>

## Report

### 投資家等説明会を開催しました。

2月3日、東京・大手町サンケイプラザにて借入金金融機関、債券投資家、アナリスト等を対象に投資家等説明会を開催しました。UR都市機構では年2回、定期的に説明会を開催しており、今回は52社74名の参加がありました。

今回の説明会では、平成23年度経営見通し、東日本大震災の復旧・復興支援等について説明を行いました。



UR都市機構の経営に関する事項については金融機関等から常に注目を集めています。今後社会的要請に応えるため、投資家等説明会をはじめとして、IR活動を一層充実させていきます。



UR 投資家 で  [http://www.ur-net.go.jp/ir/info\\_toushika.html](http://www.ur-net.go.jp/ir/info_toushika.html)

## 「UR PRESS」Web版もお楽しみください!

「UR PRESS」Webサイトは内容も盛りだくさん。「対談」「The hit」では出演者のコメント動画も掲載。読者アンケートプレゼントも実施中です。ぜひ、サイトをご覧ください!



イメージ

UR PRESS で  <http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>

## 乙武洋匡さんのサイン本をプレゼント

今号の特集対談にご登場いただいた乙武洋匡さんの著書『オトことば。』(文藝春秋)を、サイン入りで5名様にプレゼント。ツイッターで一般の方々とのやりとりをまとめた人生問答集で、とてもポジティブな気持ちになれる本です。本誌読み込みのアンケートハガキか「UR PRESS」Web版から応募を!



## ご存知ですか? URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。ぜひアクセスしてみてください。

リンク先アドレス  
[http://twitter.com/UR\\_TOSHIKIKOU](http://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU)

## 編集後記

2012年の第一号となる「UR PRESS」はいかがだったでしょうか?

昨年は大きな悲しみに包まれた年でしたが、新しい年が少しでも明るい気持ちを持てる一年になるよう「元気」という言葉をキーワードに編集いたしました。ポジティブな生き方、元気なまちづくり、ふるさとのたくましさ、好きこそ元気の源...等々、さまざまな切り口から読者の皆さまに「元気」をお届けできたら幸いです。

また、東京でいま一番元気のあるスポット、スカイツリー周辺のまちづくりの舞台裏もご紹介いたしました。空に向かって高く伸びるスカイツリーのように、今年一年が希望に満ち溢れた年であるようお祈り申し上げます。

季刊「ユアールプレス・冬号」  
Vol.28(2012年3月)

発行 独立行政法人都市再生機構  
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1  
横浜アイランドタワー  
Tel.045-650-0881  
Fax.045-650-0889

編集・制作 (株)日本経済社  
印刷 (株)丸庄